

歴史散歩

れきしさんぽ No.22

平和への願い・久留米の戦争遺跡(1)



- ①第12師団司令部 ②師団被服倉庫 ③久留米信託社 ④師団兵器部 ⑤西部第48部隊 ⑥西部第49部隊 ⑦西部第50部隊 ⑧西部第51部隊 ⑨西部第52部隊 ⑩西部第54部隊 ⑪久留米陸軍病院 ⑫憲兵隊本部 ⑬第1陸軍予備士官学校 ⑭第2陸軍予備士官学校 ⑮師団長官舎 ⑯工兵隊作業場 ⑰工兵隊渡河訓練場 ⑱第1軍用水道 ⑲第2軍用水道 ⑳陸軍墓地 ㉑久留米練兵場 ㉒内野訓練場 ㉓高良台演習場 ㉔歩兵第24旅団司令部 ㉕高良内射撃場
(○の数字は表1の番号と一致する。)

1945(昭和20)年に戦争が終わって、今年ちょうど60年に当たります。戦争体験者は全人口の2割程度になり、戦争の体験者は年々少なくなっています。戦争の記憶は「ヒト」から「モノ」へと移り、「モノ」としての「戦争遺跡」はこれから重要な役割を果たしていきましょう。

戦争遺跡とは「近代日本の侵略戦争とその進行過程で戦闘や事件への加害・被害、反戦抵抗に関わって国内・国外で形成され、かつ、現在に残された構造物・遺構や跡地のこと」注1とされています。地域の戦争遺跡を調査・研究・保存し、その戦争の実相を伝えていくことは、平和の語り部としてそれらの遺跡を再生させることになるでしょう。

久留米市は明治30(1897)年に国分村に歩兵48連隊が設置されて以降、現在の南町、野中町、諏訪野町、荒木町、上津町、御井町、高良内町、藤山

町などに師団司令部や連隊本部、陸軍病院、駐屯地、演習場などが設置され、「軍都久留米」と呼ばれていました。この歴史から久留米には戦争遺跡が濃密に残ります。また、久留米は昭和20年8月にはアメリカ軍機の空襲により多くの死者を出すなど甚大な被害を受けました。この戦災痕跡も戦争遺跡として記録されなければなりません。

表1 旧軍施設の規模一覧

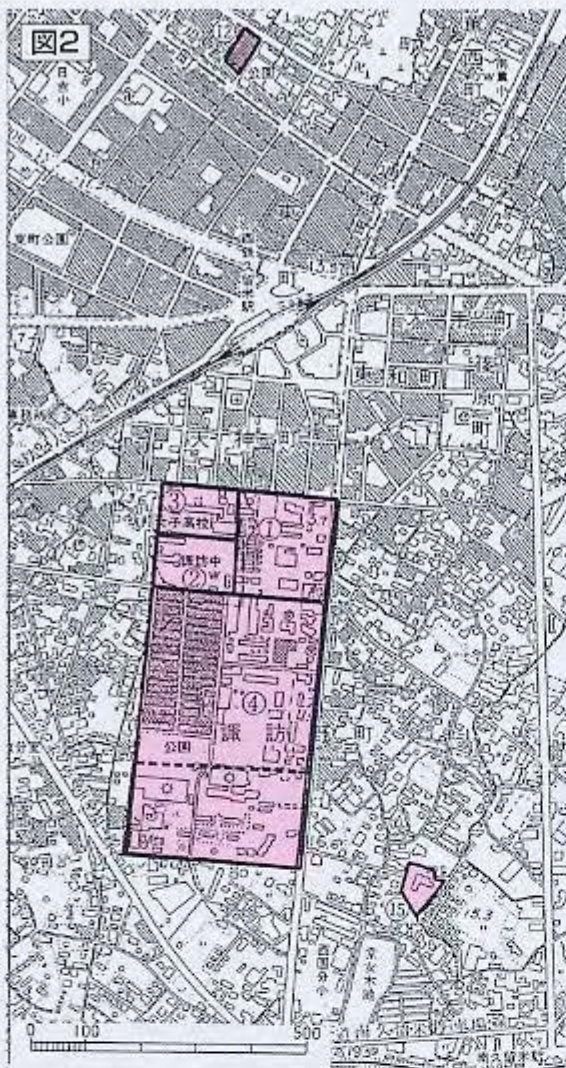
名 称	所在地	現 況	土地面積(㎡)	建物面積(㎡)	備 考
久留米師団司令部 〔留守第56師団司令部等〕 ^①	諏訪野町	久留米税務署 社会保険事務所他	41,497.19	8,304.12	()は 内被服庫分
師団被服庫 ^②	諏訪野町	市立諏訪中学校	(13,742.4)	(2,382.8)	
久留米借行社 ^③	束町	久留米学園高等学校	38,695	—	
師団兵器部 ^④	諏訪野町	エールピア久留米ほか 住宅・工場	132,806.6	1,265.12	師団火薬庫を 含む
西部第48部隊 〔歩兵第148連隊補充隊〕 ^⑤	国分町	陸上自衛隊 第4特科連隊	135,487.59	28,115.7	作業場 (16337㎡) は含まない
西部第49部隊 〔戦車第1・第18連隊補充隊等〕 ^⑥	高良内町	県立久留米 高等学校ほか	168,828.1	21,332.3	
西部第50部隊 〔捜索第56連隊補充隊等〕 ^⑦	南町	市立幸田山中学校 南小学校ほか	85,725.61	11,259.5	
西部第51部隊 〔野砲兵第56連隊補充隊等〕 ^⑧	南町	福岡教育大付属 久留米小・中学校他	130,363.63	23,804.96	
西部第52部隊 〔工兵第56連隊補充隊等〕 ^⑨	御井町	久留米大学 御井学舎他	60,849.58	11,229.75	
西部第53部隊 〔56師団通信隊補充隊他〕	国分町	陸上自衛隊 第4特科連隊	—	—	西部第48部隊 構内に設置
西部第54部隊 〔輜重兵第56連隊補充隊等〕 ^⑩	南町	市営住宅・ 保育園・商店ほか	92,029.75	17,818.18	
久留米陸軍病院 ^⑪	国分町	久留米大学医学部 付属医療センター	32,928.67	21,937.19	歩兵第24旅 団司令部 (2,524.5㎡) は含まない
憲兵隊本部・ 憲兵分隊 ^⑫	蜷川町	木下株式会社	1,563.6	595.98	
第1陸軍予備士官 学校 ^⑬	高良内町	陸上自衛隊幹部 候補生学校	214,836.6	46,823.7	同校訓練場 は含まない
第2陸軍予備士官 学校 ^⑭	南町	市立久留米商業高校・ 久留米養護学校	73,652.7	36,507.9	元山砲第三 大隊兵舎・ 隔離院
師団長官舎 ^⑮	諏訪野町	高牟礼会館	5,148	605.5	別棟に師団 副官官舎 (557.7㎡)
工兵隊作業場 ^⑯	御井町	九州沖縄農業 技術センター 野菜花き研究部	256,712.96		
工兵隊渡河訓練場 ^⑰	太郎原町	住宅・農地	18,578.51	2,763.63	
第1軍用水道 ^⑱	国分町	白川公園	5,771	92.4	水源地
第2軍用水道 ^⑲	御井町	(大蔵省管理地)	2,191.2	69.3	配水地
陸軍墓地 ^⑳	野中町	市営競輪場 ・同駐車場 ・公園ほか	71,074.7	350.4	
久留米練兵場 〔幸田山練兵場〕	南町 上津町	住宅ほか	467,216.51	2,095.87	
内野訓練場	高良内町 藤山町	自衛隊用地 住宅・農地他	2,739,128		第1予備士官 学校訓練場・ 高良内射撃場・ 藤山射撃場・ 第148連隊 作業場の計60ha 以上は山林
高良台演習場	広川・上津・ 荒木町ほか	自衛隊演習地・工場	4,435,411.2	6,933.2	

(注) 表中○数字は位置図との対象番号

面積数字は「昭和20年終戦に伴う旧軍用財産引受関係級」(北九州財務局久留米出張所)・

「旧軍用地所管換申請」(福岡県)などを参照

本表は「久留米市史 第十一巻 資料編 現代」所収の表を一部改変しています。



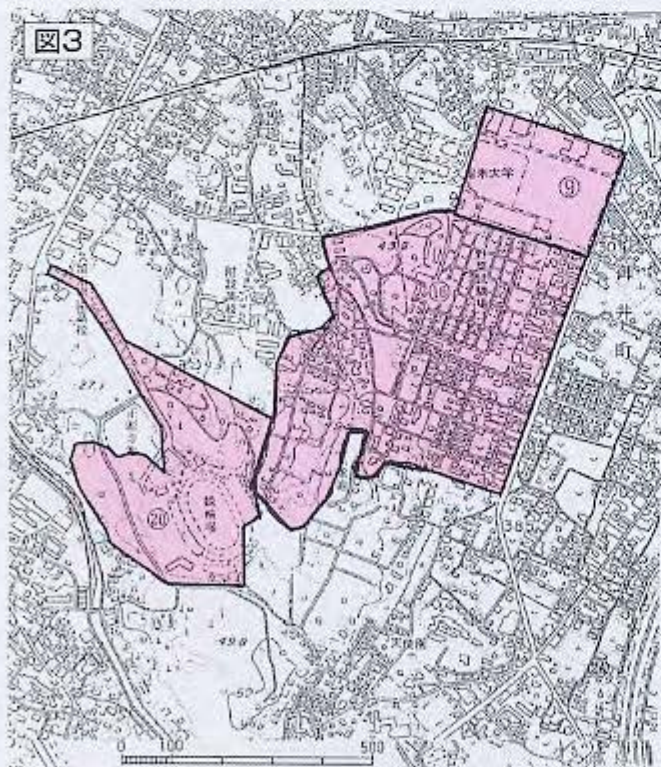
①師団司令部跡 ②師団被服倉庫跡 ③久留米借行社跡
④師団兵器部跡 ⑤憲兵隊跡 ⑥師団長官舎跡

西鉄久留米駅周辺の戦争遺跡 (図1・2、表1参照)

諏訪野町の税務署一帯は旧軍施設が集中します。官公庁や学校敷地に利用されています。久留米税務署は師団司令部跡です。レンガ造のモルタル塼、門柱が残り、記念碑が建てられています。境界溝には「陸軍」の境界標が残ります。現存する遺構としては師団長官舎があります。現在は高牟礼会館として使用されていますが、当時の雰囲気をよく残しています。師団兵器部のレンガ造火薬庫は最近まで残っていましたが、消滅しました。



高牟礼会館(旧師団長官舎)



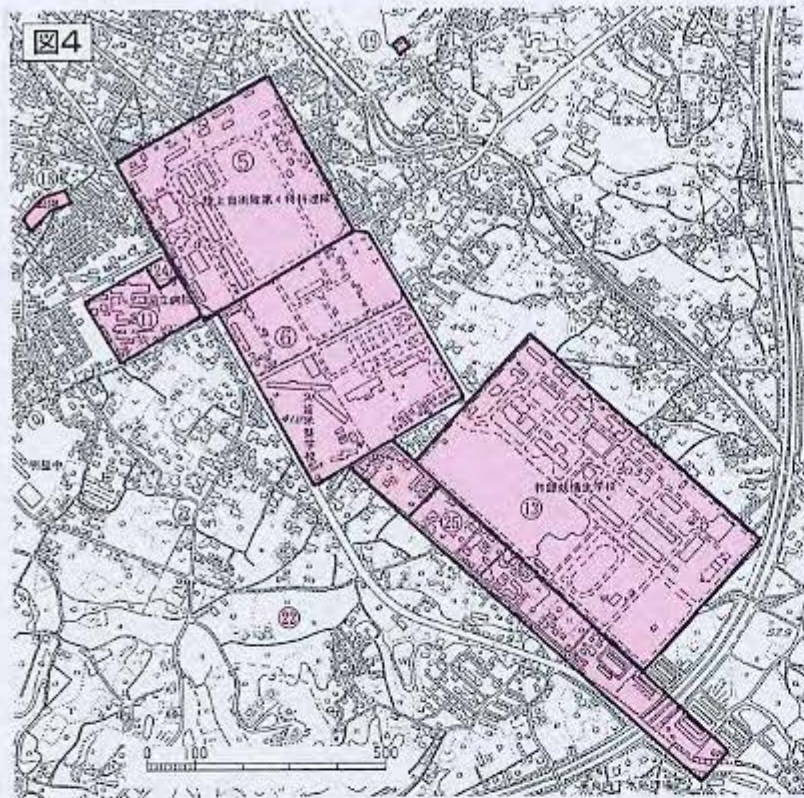
⑨西部第52部隊跡 ⑩工兵隊作業場跡 ⑪陸軍基地跡

御井町・野中町周辺の戦争遺跡 (図1・3、表1参照)

久留米大学御井学舎と九州・沖縄農業研究センター、競輪場などに転用された地域です。競輪場周辺は昭和14年から2年9か月をかけて作られた陸軍墓地で、忠霊塔・陸軍橋・運拝塔・円形講堂などが残ります。工兵隊作業場に当たる九州・沖縄農業研究センター内には「爆弾三勇士」碑台座と「久留米工兵隊之跡」碑があります。



耕心園碑(旧爆弾三勇士碑台座)



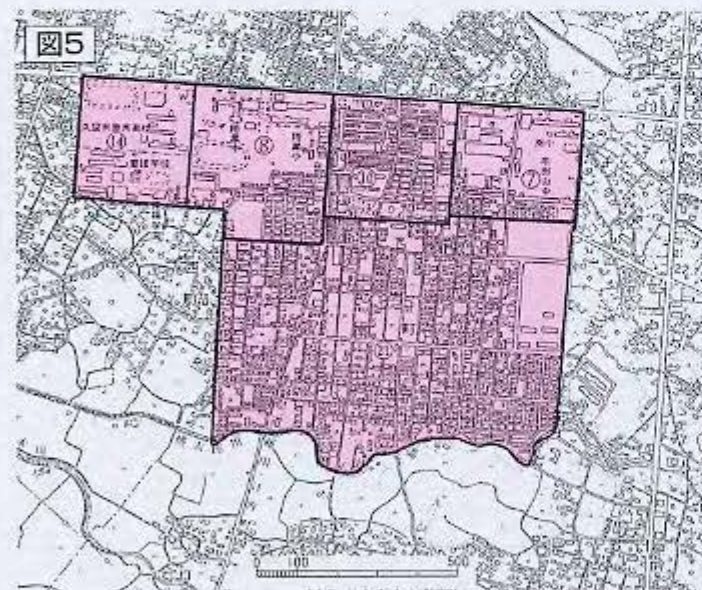
- ⑤西部第48部隊跡 ⑥西部第49部隊跡 ⑦陸軍病院跡 ⑧第1陸軍予備士官学校跡
 ⑨第1軍用水道跡 ⑩第2軍用水道跡 ⑪内野訓練場跡 ⑫歩兵第24旅団司令部跡
 ⑬高良内射撃場跡

国分町・高良内町周辺の戦争遺跡 (図1・4、表1参照)

久留米市内で最初に軍隊が置かれた地区です。一部が住宅・学校敷地などになっていますが、現在も自衛隊第4特科連隊駐屯地及び幹部候補生学校などに使用されています。陸軍病院(衛戍病院)跡は久留米大学医療センターです。自衛隊の中には資料館があり事前に申し込みで見学ができます。



久留米衛戍病院娯楽室寄付記念碑
 (久留米大学医療センター内)



- ⑭西部第50部隊跡 ⑮西部第51部隊跡 ⑯西部54部隊跡 ⑰第2陸軍予備士官学校跡
 ⑱久留米練兵場跡

南町周辺の戦争遺跡 (図1・5、表1参照)

各部隊駐屯地跡が南小学校、牟田山中学校、福岡教育大学付属小・中学校、久留米商業高校、久留米養護学校と市営住宅などに、練兵場は住宅地などになっています。この地区の北側を走る道路は学校が並ぶことから「学園通り」と呼ばれていますが、戦前には軍用道路の役割を持つものでした。

■参考文献(主要文献)

- 久留米市 『久留米市誌』 昭和8年
 久留米市 『続久留米市誌』 昭和30年
 久留米市 『久留米市史』 3・4・11巻
 (昭和60年、平成元・8年)
 十菱駿武・菊地実編 『しらべる戦争遺跡の事典』
 柏書房 平成14年(※注1)
 今回掲載した図面・表は『久留米市史』11巻所収のものを一部改変し、転載しました。

◆ 歴史散歩 No22 ◆

平成17年3月31日発行

発行 久留米市教育委員会

〒830-8520 久留米市城南町15-3

教育文化部文化財保護課 0942-30-9225

久留米市埋蔵文化財センター 0942-34-4995

久留米文化財収蔵館 0942-38-6194